

CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

環境マネジメント

気候変動への対応

製品・容器包装の3R

廃棄物等の管理・削減

水資源の保護

有害化学物質の管理・削減

生物多様性の保全

社会

ガバナンス

水資源の保護

環境アクションプラン2025年度実績[概要] ▶ p.038

環境アクションプラン2026年度目標[概要] ▶ p.039

基本的な考え方

ニコングループの主力製品である光学レンズやその材料となる石英ガラスの生産工程では、大量の水資源を必要とします。例えば、光学レンズの研磨工程では、適切な研磨材濃度を保つため随時水を補給しなければなりません。また、石英ガラス製造においては、排気に含まれる酸成分を排ガス洗浄装置にて除去するときに水が必要となります。このように、水はニコングループの事業運営に欠かせない資源であるとともに、排水などを通じて地球環境に影響を与えています。したがって、水資源の保全に取り組むことは事業の継続のために不可欠です。ニコングループは2050年度を見据えたニコン環境長期ビジョンを策定していますが、その3つの柱のうち「資源循環型社会の実現」は水を含む資源に関するビジョンであり、「健康で安全な社会の実現」は水の安全性に関するビジョンに該当します。これらを実現するために、ニコン環境方針の中で、定期的な水リスク評価の実施や取水量などのモニタリングの実施、積極的な水の再利用の推進、法規制を上回る自主基準値の設定と遵守を行うことで、水の使用による環境負荷を限りなく低減することに尽力しています。また取り組みの着実な推進と水準向上のため、従業員に対する環境教育の一環として水に関する取り組みや関連法規制などについて研修を行っています。

 Web

▶ ニコン環境方針

戦略

リスク

気候変動や異常気象、その他災害等により、十分な水資源が確保できなくなり操業困難になることを水に関するリスクとして認識しています。これは直接操業だけでなく、調達パートナーを含むサプライチェーン全体の水リスクとして捉えています。また台風や長雨による洪水、浸水で、自社やサプライヤーの拠点が被災したり、物流が寸断したりすることにより、操業が停止する恐れがあります。今後気候変動が進むと、これらのリスクは発生確率がさらに高まる可能性があります。

また何らかの理由で適切に排水処理ができず、関連する法規制を遵守できなかったときの対応費用の発生、社名公表による社会的信用の失墜や投資の引き上げなどをリスクとして認識しています。

機会

水資源の再利用や循環利用などを効率的に推進することは、事業コスト削減につながると考えています。また、水リスクに関するステークホルダーからの要求への適切な対応などで信頼を獲得する機会となります。

戦略

ニコングループでは取水量、排水量、再利用量などのモニタリングを行い、取水量削減につながる水有効利用の取り組みを積極的に行っています。2021年度からは、使用した水をもとの水質と同等もしくはそれ以上にして戻すことも重要であると考え

え、「淡水消費量*」という新たな指標を導入しました。ニコングループでは、淡水消費量を削減していくことが各地域における取水負荷低減につながるとともに、水道水に代表される水に関わるコスト低減にも直結するものと考えています。また、生産拠点では、水の効率的利用、有効活用を目的に、水の収支とプロセス別使用量を可視化した「水バランスシート」を作成しています。これにより、節水・再利用等の機会を特定し、改善策の実施につなげています。

2025年度のニコングループ全体の淡水消費量は1,678千㎡となり、2018年度比で3%以上削減することとした環境アクションプランの2025年度目標を達成（10.6%削減）しました。

* 淡水消費量：A～C取水量の合計からD戻り水量を差し引いた値 (A+B+C-D)
A：地方自治体水道設備からの取水（水道水、工業用水など）
B：地表水からの取水（湖沼、河川）
C：地下水からの取水
D：取水源と同等またはそれ以上の品質での戻り水（B,Cにのみ適用）

ニコン環境長期ビジョンとニコン環境中期目標 ▶ p.030

ガバナンス

ニコングループでは、拠点、グループ会社ごとに削減目標を立ててデータの管理を行っています。そして環境部会傘下の地区環境部会事務局がそれぞれの実績および目標の達成状況を確認しています。

環境推進体制 ▶ p.032

CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

環境マネジメント

気候変動への対応

製品・容器包装の3R

廃棄物等の管理・削減

水資源の保護

有害化学物質の管理・削減

生物多様性の保全

社会

ガバナンス

リスク管理

水リスクは地域特有のものが多いため、各拠点、グループ会社ごとにリスク抽出を行い、対応するための取り組みを決定し、目標へ落とし込んでいます。水に関わる問題が将来にわたって企業活動におよぼしうる影響については、地区環境部会事務局が中心となって外部の専門業者の協力のもと、3年に1度の頻度で評価を行っています。2019年には取水量の多い国内外の事業所16拠点を対象に、Aqueduct^{*1}を用いた水リスク評価を行い、ニコングループが事業活動を行う地域において、著しく水ストレス^{*2}の高い地域はないことを確認しました。

2024年度は、近年サプライチェーンにおける水リスクの把握・特定を問われるようになってきている状況を鑑み、調達先の水リスク調査を実施しました。具体的には、調達部門が選定した245社（262拠点）の調達先に対する水リスク調査を実施し、優先拠点を抽出しました。

ニコングループでは、取水量、排水量、淡水消費量などのデータについては、各拠点、グループ会社ごとに環境データ収集システムを用いて、月次で監視しています。排水の水質については、各拠点、グループ会社ごとに法規制よりも厳しい基準値（自主基準値）を設定し、モニタリングしています。自主基準値の策定にあたっては、地方自治体が定める基準を踏まえて適切な水準を設定し、所管当局へ届け出のうえ運用しています。万が一基準値を超過した際には、ニコングループが定める環境事故連絡手順に則り、即座に関係者に報告するとともに、処置を実施し、環境への影響の最小化に努めています。

^{*1} Aqueduct: 世界資源研究所が無償提供している世界の水リスクを示した世界地図・情報ツール。

^{*2} 水ストレス: 水の需要が供給量を超えている状態。

主な取り組み

適切な排水処理の実施

ニコングループでは生産工程にて多量の水を使用します。使用した水を排出する際は各地の水域への環境負荷を最小化させるため、適切な排水処理を実施して排水しています。

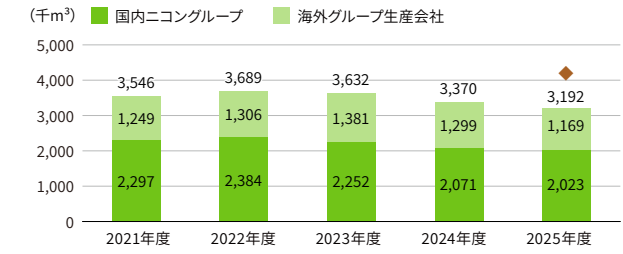
具体的には、各地域で定められた排水基準よりもさらに厳しい自主基準を設け、定期的な監視を行いながら排水の水質レベルに応じて適切な排水処理を実施しています。

取水量と排水量

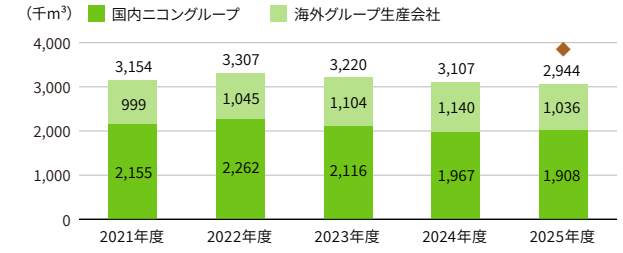
ニコングループの2025年度の水取水量は3,192千^m³（国内ニコングループ2,023千^m³、海外グループ生産会社1,169千^m³）、排水量は2,944千^m³（国内ニコングループ1,908千^m³、海外グループ生産会社1,036千^m³）でした。また、淡水消費量は、1,678千^m³となり、目標である「淡水消費量を2018年度比で3%以上削減」を達成（10.6%削減）しました。

また、生産工程で多くの水を必要とする事業所・グループ会社では、生産工程で発生する排水を適正に処理し、再利用を積極的に推進しています。2025年度のニコングループの水の再利用率は8.0%となりました。

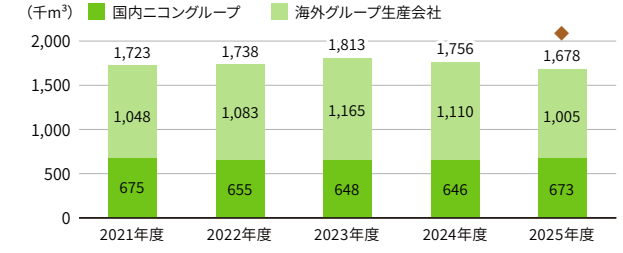
● 取水量推移



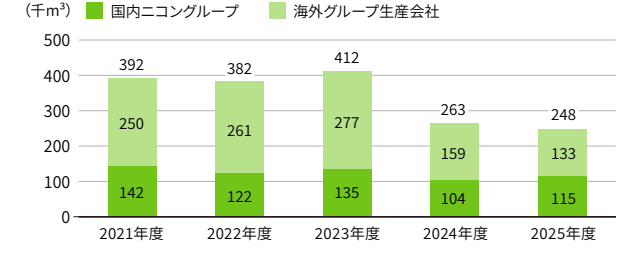
● 排水量推移



● 淡水消費量推移



● 水消費量推移



CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

環境マネジメント

気候変動への対応

製品・容器包装の3R

廃棄物等の管理・削減

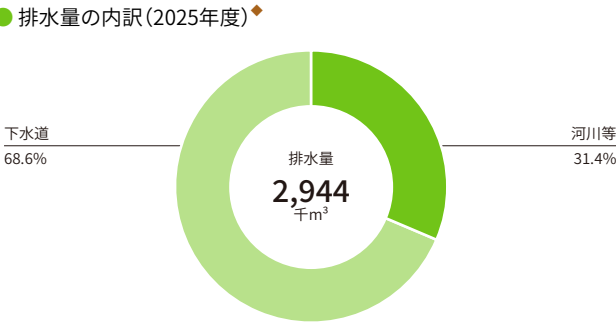
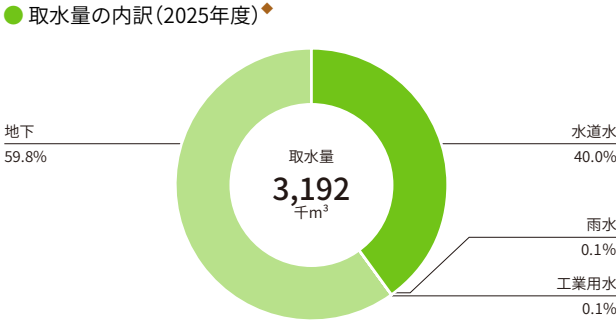
水資源の保護

有害化学物質の管理・削減

生物多様性の保全

社会

ガバナンス



◆:データ集において、第三者保証を受けている数値。

水再利用施策

排水の再利用事例 (ニコン湘南分室)

フォトマスク基板の製造を行うニコン湘南分室では、研磨工程や洗浄工程で多量の水を使います。そこで、従来不要な水として排出していた洗浄工程からの排水を、純水製造装置の供給水として再利用する仕組みを2018年度に導入しました。これにより、ニコン湘南分室では2025年度の1年間で約9,600m³の排水を再利用し、導入前と比較して取水量を約7.9%削減することができました。

濃縮水の有効活用 (ニコン熊谷製作所)

ニコン熊谷製作所では、半導体露光装置の製造を行っています。半導体露光装置の生産工程では超純水が多量に必要です。超純水を生成するために、まず水道水を超純水装置に投入し、RO膜で純水と濃縮水に分離します。純水はさらに処理を施して超純水を生成しますが、濃縮水については不要な水として従来は排出されていました。その濃縮水を有効に活用する施策として、冷却塔への補給水として再利用する仕組みを2018年度に導入しました。また、2020年10月からは濃縮水を再利用する冷却塔の数を増やしました。これにより、2025年度は年間約3.8万m³の濃縮水を冷却塔の補給水として再利用することができました。なお、この再利用量はニコン熊谷製作所の総取水量の約12%に当たります。

生活排水や浄化処理水の再利用 (Nikon Lao Co., Ltd.)

Nikon Lao Co., Ltd. (ラオス)は水供給のインフラが不足している地域に立地するため、水への取り組みを積極的に行っています。生活排水を浄化処理し、トイレ用水や庭木への散水用として再利用しています。また、浄化処理水を冷却水へ再利用する取り組みも行っています。



Nikon Lao Co., Ltd. の排水処理システム

● 国内ニコングループおよび海外グループ生産会社の再利用水量推移

